



第2次まちづくり計画

# あわトピアプラン

～あわ七色ハートプラン～

阿波地域住民自治協議会

## はじめに

今、私たちを取り巻く社会環境は、待ったなしの高齢化、人口減少社会が到来しています。2008年にピークの1億2,800万人を記録した日本の人口は減少に転じ、現在は1億2,600万人になっており、2053年には1億人割れとなることが想定されています。

その結果、東京、大阪、名古屋、福岡を中心とする大都市圏以外の大多数の自治体の人口が減少することとなり、中山間などの地域社会では、一層の人口減少と超高齢化が進むと共に、社会資本の整備からはどんどん取り残されていくことが想定されます。

伊賀市はもとより、私たちの阿波地域でも現在の人口1,063人、高齢化率47.4%がさらに過疎化・高齢化が進むこととなります。

伊賀市合併後10数年を経過しましたが、このほど現行のまちづくり計画を見直し「あわトピアプラン」を策定いたしました。このことは、平成26年11月にまちづくり計画プロジェクトチームを発足し、事前に実施したアンケートで顕在化している地域の課題や住民の皆様のご要望を基に、阿波地域の将来のあるべき姿を描き、これからどのような取り組みをしていくかの指針を示したものです。

プランの基本構想は次の通りです。

- (1) 楽しく、生き活きとした阿波に
- (2) 誰もが住みよい、心の通う、居心地のいい阿波に
- (3) 住民が未来志向で活動する阿波に
- (4) 自然を大切にする阿波に

プランの中で示している数々の取組みは、今後10年間で実施する内容としては非常に膨大であり全てを実施することは困難ですが、この中から地域の活性化や振興に寄与する一つでも多くの取組みができ、実現できればと考えています。

プランの実現には、農林業を中心とする産業振興、観光振興、環境保全、地域福祉の充実、地域コミュニティの充実などを志向しつつも、私たちが阿波に住んでいて良かった、住み続けたいと言えるまちづくりを、自治協の実行委員だけではなく、多くの住民皆さんが参加していただき、そうぞで考え、進めていくことが必要です。

まちづくりに終わりはなく、究極の目標は何をするのか、何ができたかではなく、将来に亘り「阿波びとづくり」を持続していくことだと考えています。

プランができましたので住民の皆様にお届けさせていただきますが、これからも皆様と共に元気いっぱい、明るく、楽しいまちづくりに取り組みましょう。

阿波地域住民自治協議会

会長 藤森 莊剛

# I. 基本構想

誰もが住みよい、  
心の通い合う  
居心地のいい阿波に

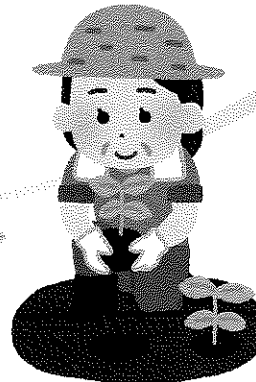


楽しく生き活きとした  
阿波に



みんなの想いを  
行動に!!

住民が  
未来志向で活動する  
阿波に

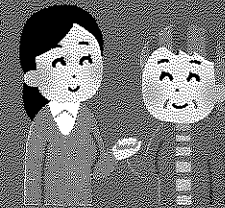


自然を大切にする  
阿波に



## Ⅱ. コンセプト

- ① 田舎暮らしのすすめ！
- ② 安全安心暮らしのすすめ！
- ③ ポジティブシンキングのすすめ！
- ④ あるもの探しのすすめ！
- ⑤ 世代間・地域間交流のすすめ！



健康長寿で暮らせる  
阿波地域を目指して

健康福祉部会

安心して暮らせる  
阿波地域を目指して

防災安全部会

楽しく生き活きと暮らせる  
阿波地域を目指して

産業交流部会

豊かな自然を活かせる  
阿波地域を目指して

環境保全部会

心豊かに暮らせる  
阿波地域を目指して

人権教育文化部会

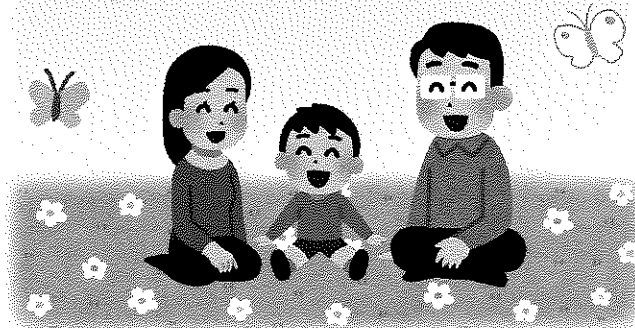


## Ⅲ. 主要事業概要

### ① 田舎暮らしのすすめ!

- 元気づくり田舎塾  
(農林業体験、自然体験、野外料理、林間学習)
- 空き家・空き室利活用  
(ゲストハウス、コテージ、セカンドハウス、農家民泊)
- 移住定住促進
- 里地里山美化活動
- 地産地消推進
- きこり塾
- 縁づくりパーティー

## 生き活きと笑顔輝く あわトピア



### ② 安全安心暮らしのすすめ!

- 防災システム確立 (自主防災、災害弱者、情報通信)
- 困りごと支援事業
- 防災訓練実施
- 不法投棄監視
- 買物支援バス
- 防災(ハザード)マップ
- グリーンキャンペーン
- 健康増進教室
- 生活排水対策
- 高齢者訪問見守り
- 自主防災体制確立
- 介護予防イベント
- 子育て教室

### ③ ポジティブシンキングのすすめ!

- 特産品開発  
(シビエ、木工、そば、農産加工品、特殊農産品)
- 環境学習センター (産・官・学協働)
- 耕作放棄地、空き家空き地管理
- 未利用地開発
- 再生可能エネルギー開発
- 人権イベント
- 親水公園整備
- 誘客促進  
(農家民泊、ホームステイ)
- 健康増進イベント開催  
(健康ウォーク、サイクリング)

### ④ あるもの探しのすすめ!

- ハイキング・サイクリングコース整備  
(東海自然歩道、西教山遊歩道、阿波スカイライン遊歩道)
- 自然観察会  
(星空、野生鹿、オオサンショウウオ、キノコ、山菜)
- 観光案内マップ・案内板設置  
(観光スポット、景勝地、歴史文化史跡)
- 伝統行事伝承
- 阿波の匠 (人材バンク)
- 環境保全マップ (名花、名木、名水)
- 語り部育成
- 親水公園整備
- リバーキーパー

### ⑤ 世代間・地域間交流のすすめ!

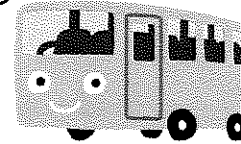
- 自然休養村
- 地域間交流イベント
- 自然丸ごと体験塾
- 環境林、水源林整備
- 世代間交流イベント
- キャンプ場整備
- サークル、サロン開設

# IV-1. あわトピアプラン(健康福祉部会)

## I. 困りごと支援事業

- ①先進地調査及び情報収集
- ②組織体制の整備
- ③困りごと支援の事業の試行開始
- ④買い物支援バスの運行管理

- ①困りごと事業の本格運用  
(支援対象業務拡大)
- ②買い物支援専用バスの  
確保



- ①困りごと支援事業の定着
- ②買い物バス運用の充実
- ③地域運行バスの実用化検討

## II. 福祉のまちづくり

- ①高齢者訪問・見守り
- ②介護予防支援(脳トレ等)
- ③子育て支援検討、試行開始

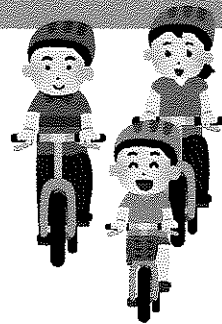
- ①高齢者訪問・見守り充実
- ②介護予防支援の充実(健康講話等)
- ③子育て支援の見直し

- ①高齢者訪問・見守り継続
- ②介護予防支援の継続
- ③子育て支援の継続



## III. 健康のまちづくり

- ①健康増進教室  
(ヨガ・腰痛体操)
- ②施設整備  
(遊歩道・サイクリング  
コース等)



- ①健康増進のためのイベント開催  
(ウォーキング・サイクリング)

- ①健康増進のためのイベント継続  
(ハイキングコース整備)

第1段階			第2段階			第3段階			
29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度

## IV-2. あわトピアプラン(環境保全部会)

豊かな自然を活かせる  
阿波地域を目指して

### I. 自然環境保全活動

- ①環境保全意識の啓蒙
- ②看板・ポスターの掲示
- ③自然環境保全マップの作成
- ④名花・名木・名水マップの作成

- ①産・学連携協働の取組み
- ②親水公園の設置
- ③自然環境・水源涵養林の整備



- ①淀川上下流交流イベント
- ②自然休養村

### II. 環境学習センター

- ①自然丸ごと体験塾Ⅰ  
基本構想の策定(川遊び・魚つかみ大会)
- ②環境学習センターⅠ  
基本構想の策定
- ③自然観察会Ⅰ(スターウォッチング・野生シカ観察会)



- ①自然丸ごと体験塾Ⅱ(発眼卵放流・木登り)
- ②環境学習センターⅡ  
設立準備
- ③自然観察会Ⅱ  
(オオサンショウオ・水辺の生き物の観察会)

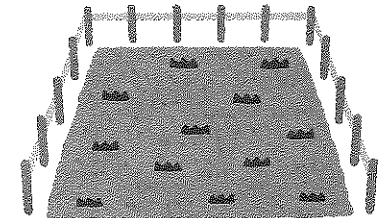
- ①自然丸ごと体験塾Ⅲ  
(塾生募集と塾の立上げ)
- ②環境学習センターⅢ  
産・学・官と協働したセンターの開設
- ③自然観察会Ⅲ(キノコ狩り・山菜採り)

### III. 環境美化活動

- ①クリーンキャンペーン
- ②不法投棄の監視体制の強化
- ③生活排水対策

- ①服部川リバーキーパー
- ②里山・里道の清掃美化活動

- ①放棄空き家・空き地の適正管理



#### 第1段階

#### 第2段階

#### 第3段階

29年度

30年度

31年度

32年度

33年度

34年度

35年度

36年度

37年度

38年度

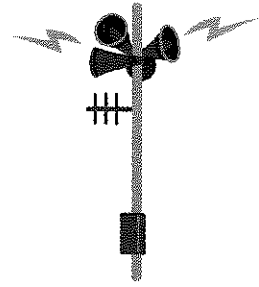


# IV-3. あわトピアプラン(防災安全部会)

## I. 地域防災計画の策定

- ①行政と連携した災害情報伝達網の確保
- ②住民の安否確認情報を共有できる体制づくり

- ①防災システムの維持管理



- ①災害発生時の安否確認体制の確立

## II. 自主防災体制の確立

- ①消防団との合同防災訓練実施
- ②防災マップの周知



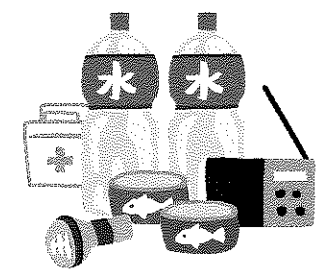
- ①災害を想定した合同訓練の継続
- ②防災マップの継続的な見直し

- ①時代ニーズに合った自主防災体制の確立
- ②高齢者・災害弱者を含めた防災訓練の継続

## III. 防犯・防災に関する意識高揚

- ①情報収集と犯罪未然防止活動
- ②講演会や講習の実施

- ①住民への情報提供継続
- ②防災備品の点検整備



第1段階			第2段階			第3段階			
29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度

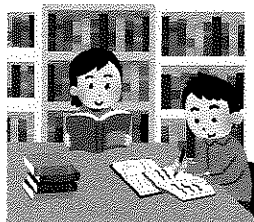


# IV-4. あわトピアプラン(人権教育文化部会)

心豊かに暮らせる  
阿波地域を目指して

## I. 阿波の語り部

- ①歴史研究と資料作成
- ②祭り・伝統行事の伝承
- ③史跡、歴史遺産等の洗い出し

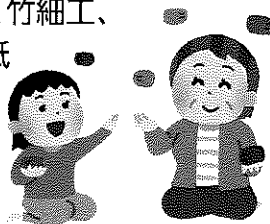


- ①語り部の育成と認証制度
- ②語り部資料作成
- ③阿波遺産の認定
- ④歴史散策コースの設定と案内図の制作

- ①阿波遺産の看板設置と情報発信
- ②歴史資料館と歴史教室

## II. 世代間・地域間交流

- ①伝統工芸、昔の遊びの掘り起こしと継承 ~しめ縄、竹細工、お手玉、あやとり、折り紙
- ②子どもとお年寄りの交流イベント



- ①講師の育成と活動のサポート
- ②サークル・サロンの立上げと活動推進

- ①各種イベントの開催
- ②エンジョイハートプランと縁づくりパーティー

## III. 人権のまちづくり

- ①人権懇談会の充実
- ②人権イベントの実施

- ①バリアフリーチェックとその対応
- ②インバウンドに対応した外国人のおもてなし

- ①住民対象の人権教室



### 第1段階

### 第2段階

### 第3段階

29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

## Ⅳ-5. あわトピアプラン(産業交流部会)

### Ⅰ. 空き家の利活用

- ①家主意向調査
- ②情報発信
- ③新たな利活用の検討



- ①移住定住の促進
- ②ゲストハウス、コテージ等への利用と事業化
- ③農家民泊の推進

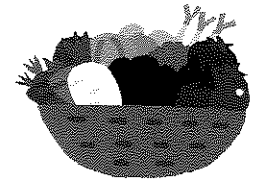
- ①移住定住者のケア
- ②利活用の拡大

### Ⅱ. 特産品開発

- ①各種研修会・先進地視察
- ②地産地消の推進
- ③耕作放棄地利用の検討

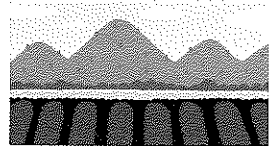
- ①産・学協働取組み
- ②研究機関との協働取組み

- ①主産地形成
- ②特産品商品開発



### Ⅲ. おもてなしのまちづくり

- ①元気づくり田舎塾Ⅰ(基本構想の策定)
- ②観光案内マップ
- ③観光案内板作成
- ④さるびのサポーター



- ①元気づくり田舎塾Ⅱ  
(田舎暮らし体験)  
(農林業体験～長期滞在型・定期開催型・単発型)  
(田舎塾の講師の育成)

- ①元気づくり田舎塾Ⅲ  
(塾生募集要項とカリキュラム作成)  
(元気づくり田舎塾の開校)
- ②地域間交流の促進

### Ⅳ. 人材バンク

- ①阿波の匠探し

- ①技能講習会
- ②「AWAマイスター」認定

- ①田舎暮らし大学校
- ②きこり塾～間伐、枝打ち



#### 第1段階

#### 第2段階

#### 第3段階

29年度

30年度

31年度

32年度

33年度

34年度

35年度

36年度

37年度

38年度

# V-1. 健康福祉部会 / 主要事業実行計画

## 事業名：① 困りごとと支援体制の確立

### 1. 現 状

昨年実施した住民意識調査の結果からも、現状でも潜在的に困りごとが多くありそう。

となりの人にお世話になっても、毎回毎回お願いしにくい。一人ではできない困りごとと多くあるということも聞いている。

### 2. 事業目的

住民の困りごとをお手伝いする。

地域の元気な高齢者が地域の高齢者を支える体制を作る。



### 3. 事業方針

- ①対象者を65歳以上どなたでもサポートを受けられることとする。
- ②サポートを受けたい人と支援出来る人を予め登録してもらい会員制とする。
- ③基本有償ボランティアとして進める。

## 4. 実 施 計 画

#### ①体制図



#### 地域ケアネットワーク会議

#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

- 1. サポート事業の内容チラシ作製と配布
- 2. 利用会員募集と支援会員募集

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)												
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
1. 先進地調査及び情報収集	10	↔	↔											
2. 組織体制の整備	0	→												
3. 事業の試行開始	30	→												
4. 事業展開	1,500			→										
5. 支援対象業務拡大	20				→									
6. 買い物支援専用バス	0													
計	1,560													

### 5. 今後の事業展開

- ①サポート事業の項目、内容の継続的な見直し

### 6. 取組み課題

- ①利用者の要望を把握し、本当に困っていることに如何に対応して行くか。
- ②支援会員の充実。



# V-1. 健康福祉部会 / 主要事業実行計画

## 事業名：② 福祉のまちづくり

### 1. 現 状

日本社会全体が高齢化に向かう中で、阿波地域も例外ではなく、高齢化が進んでいる。そんな中、福祉という面に焦点を当てて見てみると、充実しているとは言えず、むしろ不十分であると言わざるを得ない。

また、老後の健康に非常に関心が強く、病院通いと薬に頼りがちな人が多くなっている。

### 2. 事業目的

健康な身体維持と健康不安解消のため、予防的な運動や体操を計画実施し健康維持を応援する。

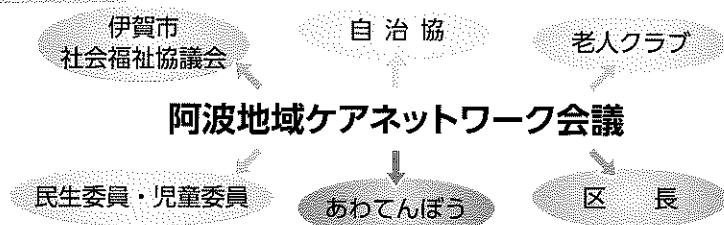


### 3. 事業方針

健康長寿で暮らせる毎日のために、関心を持って参加してもらえる各種イベントを計画実施する。

### 4. 実 施 計 画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

1. 利用時アンケート。聞き取り実施を通して課題の集約改善に努める。
2. 他組織からの情報収集
3. 活動の情報発信と事業推進の啓発活動

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)										
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
1. ケアネットワーク会議の活用	100	→										
2. 高齢者訪問・見守り	100	→										
3. 介護予防支援 (脳トレ)	400	→										
4. 介護予防支援 (健康講話)	400	→										
計	1,000											

### 5. 今後の事業展開

- ①介護予防の細目検討
- ②個別教室の見直し

### 6. 取組み課題

イベントの種類によっては、他の部会との共同開催も検討課題としてあらたなイベントにも取り組んで行く。



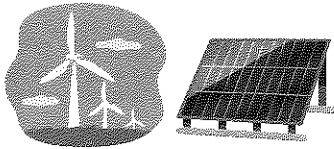
# V-2. 環境保全部会 / 主要事業実行計画

## 事業名：② 環境学習活動

### 1. 現状

豊かな自然に恵まれた阿波地域の良さについて認識することなく過ごしていることが多い。

風力発電施設や、増加してきた太陽光発電について知らないことも多い。



### 2. 事業目的

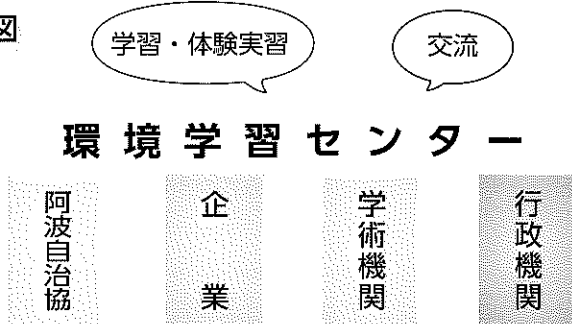
阿波地域の豊かな自然活動について学習するとともに、地域内外の人々に、阿波地域の素晴らしい自然環境や良さを体験的に学んでいただく。

### 3. 事業方針

- ①豊かな阿波地域の自然環境を再発見する中で、これらがいかに活用できるのかを学習する。
- ②関係機関と連携して地域住民や児童、学生などの環境学習拠点となる取組みを進める。
- ③環境学習は、阿波の豊かな自然環境と共に風力、小水力、太陽光などの再生可能エネルギーを中心に取組む。

### 4. 実施計画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)																		
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38									
1. 環境学習センター 準備委員会設置・協議計画策定(施設整備、運営)	1,000																			
2. 自然まるごと体験塾 (川遊び、発電卵)	100																			
3. 自然観察会 (鹿・オオサンショウウオ・星座)	50																			
4. 再生エネルギー学習会 (小水力発電・風力発電・バイオマス発電)	50																			
計	1,200																			

### 5. 今後の事業展開

- ①自然体験を中心に広範な事業展開を図る
- ②自然学習を通じ、地域環境への理解を深める
- ③センター設置に向け、行政機関への協力依頼、関係企業への支援要請を行う
- ④各種補助(助成)制度の活用等で、財源確保に努める

### 6. 取組み課題

- ①地域住民への協力依頼
- ②センター整備のための実施体制の早期確立



# V-3. 防災安全部会 / 主要事業実行計画

## 事業名：① 地域防災計画の策定

### 1. 現 状

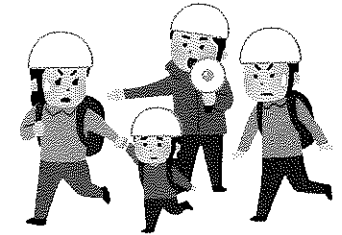
阿波地域に於ける住民への緊急時の情報伝達システムは野外放送／室内放送／MCA無線等が整備されていますが、大きな災害経験の少ない阿波地域では災害発生時の情報伝達に課題が多い。

### 2. 事業目的

- ① 減災を目的とした情報伝達をスムーズに提供出来るように備える。
- ② 予言される大災害対し、情報網の確保を行う。

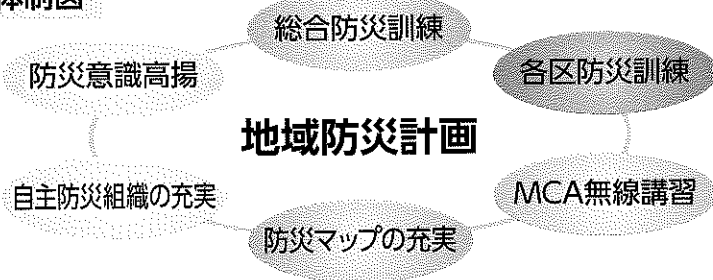
### 3. 事業方針

- ① 阿波地域住民の生命と財産を守る。
- ② 大災害に備え、災害弱者の救済、自ら行動できる体制をつくる。



## 4. 実施計画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

- 1. 受講者への案内
- 2. 受講者の意見収集

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)										
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
1. 防災MCA無線取扱い講習会	50	→										
2. 災害時の安否確認訓練	550	→										
計	600											

## 5. 今後の事業展開

- ① 防災MCA無線取扱い方の承継
- ② 大災害時の安否確認トレーニング継続
- ③ 避難所開設訓練

## 6. 取組み課題

- ① 阿波地域住民の防災意識
- ② 高齢化による自主防災維持
- ③ 伊賀市防災設備の老朽化

# V-3. 防災安全部会 / 主要事業実行計画

## 事業名：② 自主防災体制の確立

### 1. 現 状

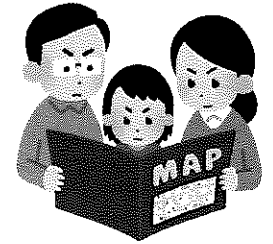
近年、東日本大震災・熊本地震を含め、予測できない災害が発生しています。また、南海トラフ大地震がいつ発生してもおかしくないと言われていいます。阿波地域に於いても、予言される地震に対し、災害から逃れることはできません。その災害に対し、備えができていないのが現状です。

### 2. 事業目的

- ①地域住民が助け合い減災を目的とする訓練の実施。
- ②災害発生時「あわてず・あせらず」の行動ができるようなシステムの構築。

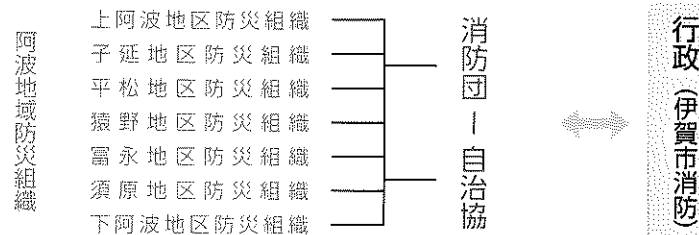
### 3. 事業方針

災害に備え、「自らの地域は、自らが守る」とする自主防災体制の構築。



### 4. 実 施 計 画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

- 1. 防災訓練の案内
- 2. 7区の自主防災・消防団・阿波地域防災と連携

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)									
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
1. 各区の自主防災訓練	550	→									
2. 防災体制図改訂	0	→									
3. 防災備品準備	330	→									
計	880										

### 5. 今後の事業展開

- ①定期的な防災訓練計画
- ②地域に合った防災体制図の整備

### 6. 取組み課題

- ①若者不足・住民の高齢化に伴う災害弱者の増加
- ②防災意識の不足 (住民との連携)

# V-4. 人権教育文化部会 / 主要事業実行計画

## 事業名：① 阿波の語り部

### 1. 現状

阿波には人々の暮らしが連綿と続いてきた歴史がある。これが地域の史跡や文化となったものが多くある。しかし、史跡は風化し、歴史的建造物は朽ち、祭りや伝統行事を営む地域が疲弊している。高齢化率の上昇とともに、文化を継承する人が少なくなってきた。これを憂い志を持つ者が、これらを紙芝居に記録して、「あわモノ語り」とした。紙芝居は、更に電子媒体に移植された。

### 2. 事業目的

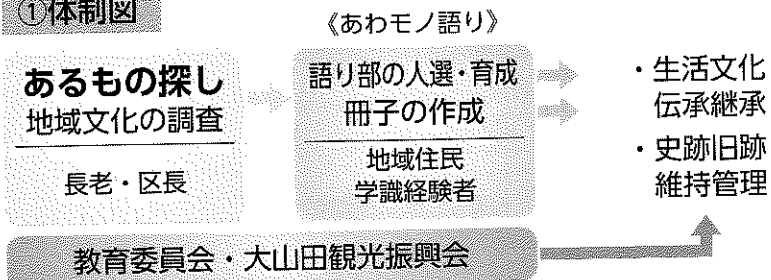
- ①地域の歴史的資源、文化的資源を探索し、阿波遺産として再認識する。
- ②この情報を地域の内外に発信し、情報を共有し、阿波遺産への来訪者を増やす。
- ③これらを通じて、阿波遺産の連綿とした維持増進、すなわち、人的資源の発掘と、歴史文化の伝承を図る。

### 3. 事業方針

- ①地域の歴史や文化を調査し、「あわモノ語り」として記録する。
- ②地域の歴史や文化を語れる人材を「語り部」として養成する。
- ③語り部の活動により、地域の来訪者を増やす。
- ④来訪者に分かりやすい案内板を史跡等に設置する。
- ⑤史跡や歴史的建物の保全を図る。

## 4. 実施計画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

1. 史跡や歴史的建造物の管理
2. 語り部の技量向上
3. 祭りや伝統行事の継承

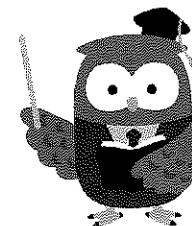
②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)																		
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38									
1. あわモノ語りのナレーションを作成	100																			
2. あわモノ語りの冊子を作成	1,000																			
3. あわモノ語りの語り部を人選	100																			
4. あわモノ語りの語り部を育成	500																			
5. 地域の歴史、文化、史跡を調査	500																			
6. 地域の史跡の案内板を設置	2,000																			
計	4,200																			

## 5. 今後の事業展開

- ①歴史と文化の記録「あわモノ語り」を深化させる
- ②阿波地域の歴史遺産や文化遺産を抽出し、阿波地域の財産として顕彰する
- ③阿波地域の歴史や文化に詳しい人による講演会を継続的に開催する

## 6. 取組み課題

- ①歴史、文化、史跡等の洗い出し
- ②語り部にふさわしい人材の発見と育成手法
- ③地域外への情報発信の仕組み作り
- ④伝統行事、史跡や歴史的建造物の維持継承





# V-4. 人権教育文化部会 / 主要事業実行計画

## 事業名：② 世代間・地域間交流

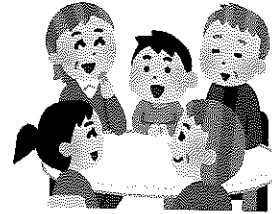
### 1. 現状

子どもは地域が育て、お年寄り地域が寄り添う、これら地縁を基盤とした地域力が低下し、上阿波から下阿波まで7地区〔横軸〕の連携、老若男女〔縦軸〕の織りなす連携連帯が、弱体化している。

これらを憂いた阿波自治協は、ふれあい運動会、しめ縄作り講習、山里コンサートなどを実施することにより、地域内での世代間地域間交流の取り組みが定着しつつある。

### 2. 事業目的

各種講座やイベントの開催を通して、世代間(縦軸)と地域間(横軸)を組み合わせ、立体的に交流を促進し、もって阿波地域の活性を図る。

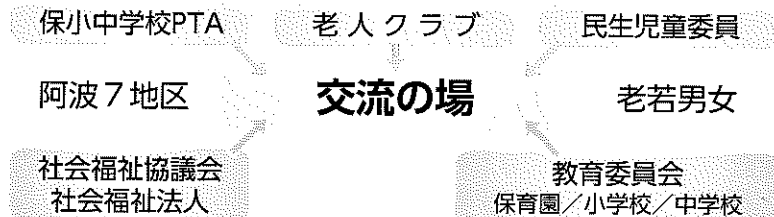


### 3. 事業方針

- ① 伝統工芸の作成や昔の遊びを指導できる講師を育成し、活動の場をサポートする。
- ② 子どもとお年寄りの交流イベントを開催する。
- ③ お年寄りのためのサークルサロンの立ち上げと活動を推進する。
- ④ 若者が出会い語れる場を創設する。

## 4. 実施計画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

1. 施設の借用：社会福祉協議会、市民センター
2. 情報の共有：保育園、小学校、中学校、老人クラブ
3. 資金の提供：市教育委員会、市図書館、社会福祉協議会

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)													
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38				
1. 実施テーマの検討	100														
2. 指導者(講師)の育成	200														
3. 実施講座の運営	500														
4. 実施イベントの運営	1,000														
5. 縁ジョイハートプランの検討	100														
計	1,900														

### 5. 今後の事業展開

- ① 伝統の工芸技術の継承〔しめ縄作り、竹細工、等〕
- ② 遊びの継承〔かるた、トランプ、双六、お手玉、あやとり、折り紙、麻雀、囲碁、将棋、等〕
- ③ 交流の場の開設〔語らいサロン、料理教室、運動会(グランドゴルフ)、落語会、等〕

### 6. 取組み課題

- ① 魅力的な講座やイベントの発掘
- ② 指導力ある講師の選任と育成
- ③ 運営スタッフの募集と設営資金の調達

# V-5. 産業交流部会 / 主要事業実行計画

## 事業名：① 空き家の利活用

### 1. 現状

- ①若者の都市部への移住により高齢者世帯や空き家が加速的に増加している。
- ②少子・高齢化、過疎化がさらに進むことで人口減少が顕著となっている。
- ③いわゆる「特定空き家」に類する家屋が増加して、環境悪化や防犯・防災上のリスクが増している。

### 2. 事業目的

- ①空き家の利活用により、他地域からの移住者を受け入れることで人口減少を抑制する。
- ②移住定住者のまちづくり活動への参加により、新たな感性による地域活性化を図る。
- ③移住定住者の新たな起業により、観光・農業などの産業振興を促進する。
- ④家主が的確な空き家管理を行うことで、周囲地域の環境保全や生活安全を確保する。

### 3. 事業方針

- ①家主アンケートにより「売家」「貸家」等の利活用可能空き家を調査する。
- ②利用可能な空き家を広く情報発信し、家主と移住希望者を仲介する。
- ③家主に対し、行政と連携し的確な空き家管理を要請する。

### 4. 実施計画

#### ①体制図

自治協企画委員会  
自治協産業交流部会  
阿波地域空き家対策協議会  
・現況調査 ・権利者意向調査  
・情報発信

田舎暮らしの  
すすめ

空き家  
情報管理  
体験ツアー

伊賀市空き家対策(行政施策)

#### ⑤その他(広報・アンケート・モニタリング・etc)

- 1. 継続的に家主の意向調査を行い、阿波地域の空き家状況に関する情報発信する。
- 2. SNSなどで田舎暮らしへのニーズを把握し、的確な情報発信を行う。

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画(年度)									
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
1. 空き家対策推進会議立ち上げと継続	20		→	→	→	→					
2. 区長会との合同推進会議の立ち上げと継続	20	→	→								
3. 空き家の家主意向調査	200	→			→			→			
4. 情報発信(空き家・就業)の収集	400		→								
5. 新規移住者との交流	400		→	→	→	→	→	→	→	→	→
6. 空き家管理のコミュニティビジネス	200		→	→	→	→	→	→	→	→	→
計	1,240										

### 5. 今後の事業展開

- ①メディアやSNSなどで田舎暮らしへのニーズを把握した積極的な空き家情報発信
- ②空き家とセットの就業情報の提供による移住定住促進
- ③各種助成・支援制度を活用した空き家の住環境整備
- ④移住希望者との交流促進
- ⑤空き家等の見回り、維持管理、墓地管理等のコミュニティビジネスの展開
- ⑥空き家賃貸、シェアハウスなどの長期貸付のほかに、空き室を活用した民泊やホームステイなどの短期宿泊利用も家主アンケートを通じて事業可能性を調査

### 6. 取組み課題

- ①家主との積極的な交渉による空き家利活用の推進
- ②老朽家屋の改良修繕に伴う財源確保
- ③空き家利活用のリフォーム・改良修繕や廃止時の解体費補助及び固定資産税優遇制度等の公的補助の充実要望
- ④空き家情報発信による当該物件の防災・防犯対策推進

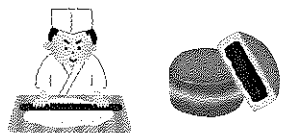


# V-5. 産業交流部会 / 主要事業実行計画

## 事業名：② 特産品開発

### 1. 現 状

行事の折に出店してきた「稲穂焼き」は、一定の人気の定着が見られ、今後の期待を寄せている。蕎麦打ちの活動も、定例の教室や出前教室にとどまらず、地産地消の推進のため方策を模索中である。



### 2. 事業目的

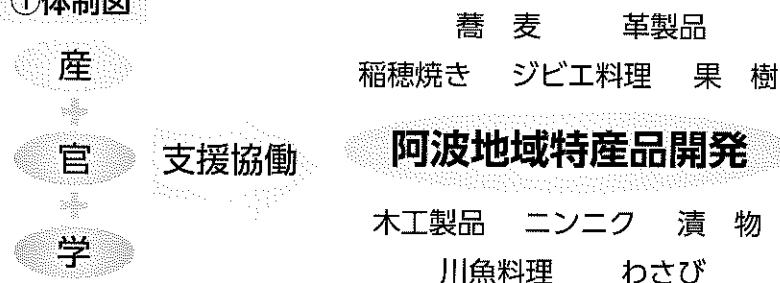
- ①「稲穂焼き」や「あわてんぼう蕎麦」などの既存特産品の推進を図る。
- ②農業面では、菜の花菜種や大納言小豆、葱等の栽培・販路を検討する。
- ③豊かな自然にはぐくまれた森林資源や渓流河川の恵みを活用した特産品を開発する。
- ④有害捕獲されたシカやイノシシを放棄するのではなく、有効活用しジビエ料理や加工品開発により地域振興を図る。

### 3. 事業方針

- ①地場産の野菜、コメ、蕎麦、などの農産品の他に、木材、溪魚など広くあるもの探しをする中で、特産品を開発する。
- ②既存の「稲穂焼き」や「あわてんぼう蕎麦」をさらに磨きをかける。
- ③産・官・学と協働の特産品開発取組みを進める。

### 4. 実施計画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

1. メディアや情報媒体を活用した情報発信
2. イベントなどを活用した特産品PR

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)										
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
1. 手打ちそば教室の実施	200	—————▶										
2. 特産品の開発、稲穂焼きの販売検討会	50		—————▶									
3. 堆肥作り・野菜栽培講習会	150			————▶								
4. 蕎麦・菜種等の有休農地利用の拡大	150	—————▶										
5. 大納言小豆・葱等の作物栽培の推進	200		————▶									
計	750											

### 5. 今後の事業展開

- ①堆肥作りや野菜等の栽培講習会開催と特産品開発の検討を進める。
- ②特産品ごとにチームを組んで事業化を進める。
- ③産・官・学協働を進める。

### 6. 取組み課題

- ①新たな特産品開発のための研究取組み
- ②活動協力者（住民参加）の拡大と事業展開



# VI. 阿波自治協全体取組み／主要事業実行計画

## 事業名：① 阿波自治協法人化取組み

### 1. 現 状

- ①阿波地域は今後も過疎高齢化が進むことが想定され、将来の地域のあり方に多くの住民が不安を抱えている。
- ②平成16年に設立した阿波自治協は10年余を経過し、現在まちづくり計画の見直し中である。
- ③アンケート結果により、高齢者支援サービスに関する要望が多く見受けられた。
- ④景気低迷の恒常化や人口減による税収確保が困難なことから、地域包括交付金や地域振興費などの公的支援が見直され、活動資金が不足している。

### 2. 事業目的

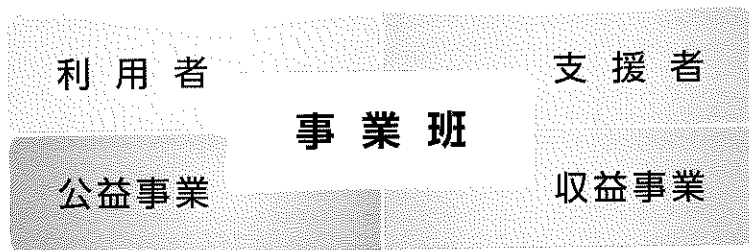
- ①新たなまちづくり計画「あわトピアプラン」策定にあたり、将来の自主・自立運営を目指して自治協組織を見直すと共に経営感覚を導入する。
- ②自治協の法人化を図ることで多様な事業に取り組む。
- ③地域住民の参加型事業を構築して、多くの住民の自治協活動への参加を促進する。

### 3. 事業方針

- ①自治協本体の法人化検討と早期設立を図る。
- ②自治協内に「事業班」を設け、公益事業及び収益事業を明確に仕分けすることで、効率的な事業展開を図る。
- ③住民目線に立った事業に取り組むことで、地域の要望に応える。
- ④事業班は公募により広く住民参加を求める。

### 4. 実施計画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

- 1. サービス内容のモニタリング
- 2. 利用促進のPR

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)									
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
1. 阿波自治協の法人化(①法人化検討、②法人化認証手続き)	50		→								
2. 事業班の設置 (必要の都度) ①まごのて号	100	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
②公共施設環境整備	0	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
③困りごと支援	50		→	→	→	→	→	→	→	→	
④稲穂焼き	100	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
⑤特産品開発・販売	200			→	→	→	→	→	→	→	
計	500										

### 5. 今後の事業展開

- ①法人設立趣旨、形態、法人化の時期、法人化後の運営方針、その他のまちづくりプロジェクトによる検討
- ②類似の地域づくり団体の事例研究
- ③事業班種別の検討
- ④公的又は民間の支援 (補助) 制度の導入検討



### 6. 取組み課題

- ①新規事業開始に伴う住民周知と理解
- ②利用会員、支援会員の確保
- ③高齢者支援サービスの支援制度設計 (利用料金、利用条件、その他)
- ④事業ごとの独立採算の確保
- ⑤必要な資格・認可等の取得
- ⑥競合する公共的企業との事業調整

# VI. 阿波自治協全体取組み／主要事業実行計画

## 事業名：② 獣害対策の取組み

### 1. 現 状

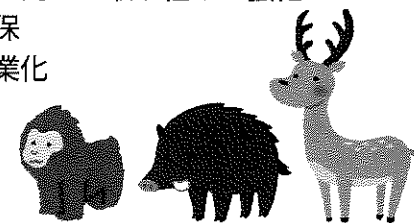
- ①各集落に追い払い隊の編成、獣害防止柵、電柵の設置等で農作物の獣害が画的に減少し、安心して農作物が栽培可能となる。
- ②追い払い隊で農林大臣表彰受賞。
- ③県農業研究所と協働で大型檻設置により有害獣（サル、イノシシ、シカ）を捕獲し頭数コントロールが進む。
- ④依然、はぐれサル、森林内のシカによる農作物や立木被害が見られ、放置により過去の獣害復活の可能性あり。
- ⑤今後の継続した取組みが必要。

### 2. 事業目的

- ①頭数把握と間引き等による適正管理の継続
- ②農作物、立木被害の最小化
- ③ジビエ等による地場産業の振興
- ④共同取組みによる地域コミュニティの醸成
- ⑤大型捕獲檻管理およびサルドコネットの自主管理

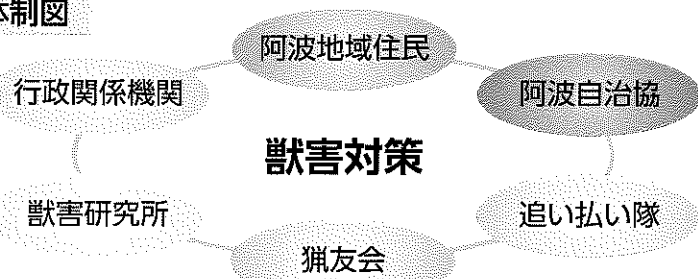
### 3. 事業方針

- ①獣害“0”に向けた取組みの強化
- ②担い手の確保
- ③組織化と事業化



### 4. 実施計画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

- 1. 適正頭数管理のためのモニタリング調査
- 2. モニタリングや被害調査の住民への情報提供

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)										
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
1. 狩猟免許取得	100	→										
2. 獣害柵、獣害檻、わな等の適正管理	0	→										
3. ジビエ特産品開発	500			→								
4. 研修・研修機関誘致	100		→									
5. 観光事業化	100		→									
6. 大型捕獲檻・サルドコ自力管理	2,000	→										
計	2,800											

### 5. 今後の事業展開

- ①各種狩猟免許取得による獣害対策の充実
- ②獣害檻、罠等の的確な管理
- ③ジビエ特産品開発
- ④獣害対策に係る研究、研修機関の誘致
- ⑤観光分野での事業化の検討

### 6. 取組み課題

- ①継続した取組み組織の確立と事業化の検討
- ②仲間づくりの推進
- ③人材確保
- ④獣害防止意識の持続

# VI. 阿波自治協全体取組み／主要事業実行計画

## 事業名：③ 阿波づくり阿波組の活動

### 1. 現 状

- ①自治協行事への住民参加の減少
- ②実行委員の固定化と高齢化
- ③取組みのマンネリ化と共に新規事業展開が減少
- ④高齢化、人口減少による将来に対する漠然とした住民の不安
- ⑤Iターン、Uターンの若者が増加傾向
- ⑥若者、女性の地域活動への参加機会が減少

### 2. 事業目的

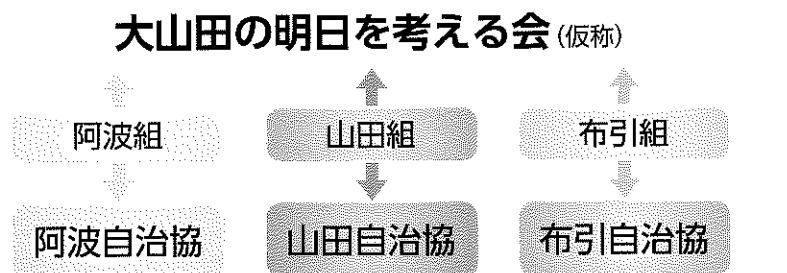
- ①若者、女性参加による自治協活動への参加促進
- ②新たな視点による活動展開
- ③次世代のまちづくり活動の担い手育成
- ④大山田の明日を考える会

### 3. 事業方針

- ①社会経済環境や自然環境の変化に対応した新たな視点と感性でまちづくり
- ②あわトピアプランへ若者、女性意見の反映
- ③事業参加による活動の活性化
- ④新たな活動や事業取組みの企画・提案

### 4. 実 施 計 画

#### ①体制図



②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)										
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
1. 組織体制の確立	0	→										
2. 活動拠点の確保とサロンの運営	0		→									
3. 自主事業の立上げと取組み	100			→	→	→	→	→	→	→	→	→
4. まちづくりへの提案と活動	0			→	→	→	→	→	→	→	→	→
5. 大山田地域のまちづくり活動	100			→	→	→	→	→	→	→	→	→
計	200											

### 5. 今後の事業展開

- ①若者、女性の仲間づくり
- ②サロン (活動拠点) の立上げ
- ③あわトピアプラン策定に参加
- ④新たな事業取組みの検討と提案



### 6. 取組み課題

- ①阿波組の仲間づくり ~会員増加と女性の参加
- ②チームの組織化とサロンの運営、大山田全体の仲間づくり

# Ⅵ. 女性委員会 / 主要事業実行計画

## 事業名：④ 女性が輝く場づくり

### 1. 現 状

阿波地域に住んでいても、仕事のため地域外で働いている女性や、子育て中の女性など女性同士の交流ができていく現状がある。

また、世代ギャップや既存グループへの参加が困難なことなどから、地域活動への女性参加が限定的である。

### 2. 事業目的

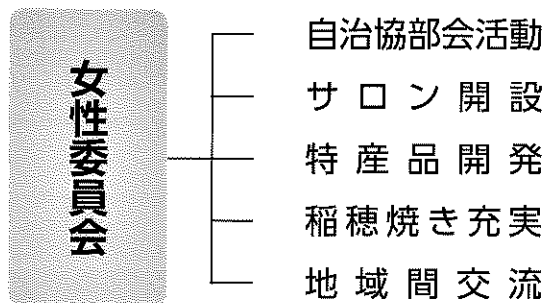
- ①阿波地域に住む女性の活躍できる場をつくると共に、地域間、世代間の交流を推進する。
- ②一人でも多くの女性が地域活動に参加することで、地域コミュニティの醸成と拡大を図る。

### 3. 事業方針

- ①多くの女性参加を目指し、無理のない参加しやすい活動を続ける。
- ②女性目線の地域づくりを推進する。
- ③まちづくり計画に女性の意見を反映する。

## 4. 実 施 計 画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

- 1. 地域活動に女性意見を活かすためのアンケートの実施
- 2. サロンでの自由な意見交換

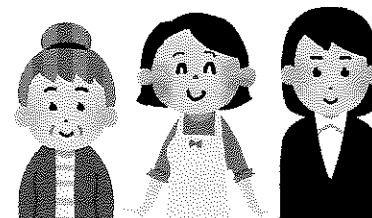
②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)												
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
1. 女性委員会のあり方の検討と組織化	20		→											
2. 地域の年代別女性へのアンケート実施と結果集約	50			→										
3. 活動の具体化と実施	0				→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
4. 稲穂焼きの充実	50	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
5. 地域間交流の企画と実施	200				→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
計	320													

### 5. 今後の事業展開

- ①こども食堂や交流カフェなどあわてんぼう施設等を利用した誰もが参加できるサロンの開設と運営
- ②フェイスブックやMLなどSNSを利用した交流の場の提供

### 6. 取組み課題

- ①地域住民への女性による地域づくりの周知、啓蒙活動の推進
- ②女性の協力体制の形成





# VI. 阿波自治協全体取組み／主要事業実行計画

## 事業名：⑤ NPO法人あわてんぼう

### 1. 現 状

- ①弁当事業：毎日型弁当注文数は設立当初、日／50個を見込んでいましたが、実際は30～40個／日である。
- ②レストラン事業：入客数が見込めない為、無駄や廃棄が多い
- ③地域交流事業：小規模な団体の交流拠点での使用はあるが、行政直轄型事業の受入先（委託先）にはなれていない現実があり課題が多い。
- ④事業所の建物の老朽化と従業員の高齢化。

### 2. 事業目的

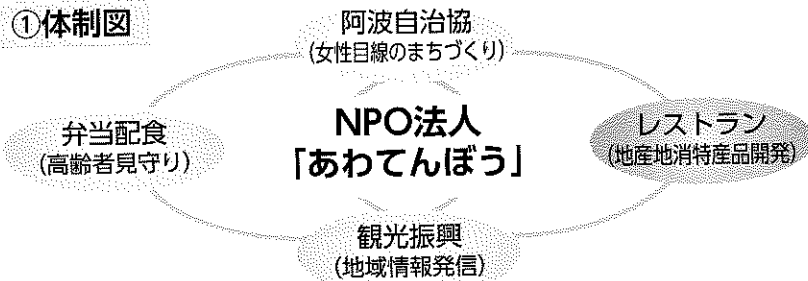
阿波地域に住んでいる住民が安心して暮らせるように、女性の視点であわ（阿波）をてんぼう（展望）する事業に積極的に取組み、スピード感をもってタイムリーな事業に取組む。

### 3. 事業方針

- ①弁当事業：販路の拡大、高齢者にのみかわらず事業所や団体にも働きかける。
- ②レストラン事業：独自商品のメニュー開発と宿泊整備（農家民泊・体験型宿泊等）
- ③地域交流事業：危機感をもった阿波地域の住民と一体となり、賑わいの拠点場所の整備を行う。

### 4. 実施計画

#### ①体制図



#### ⑤その他（広報・アンケート・モニタリング・etc）

- 1. あわてんぼう通信の配布の拡大（旧大山田全域）
- 2. ホームページ、ブログ、フェイスブックの広報の強化

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画(年度)									
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
1. 弁当販路の拡大	300	→									
2. 独自商品開発	100	→									
3. 広報活動強化	100	→									
4. 農家民泊等整備	3,000	→									
計	3,500										

### 5. 今後の事業展開

- ①阿波地域住民自治協議会、民間事業所等の事業実施にむけての連携と強化を図り、あわてんぼう事業所としての役割を担うこと。（地域活動の見学や視察に訪れた団体の昼食と宿泊でのおもてなし）
- ②阿波地域に住む農家との連携と地産地消を通じた元気高齢者（フレンドファーム）の数を拡大、増加させる。

### 6. 取組み課題

- ①事業所建物（東保育園（昭和45年建築の公共施設））の維持管理
- ②事業継続に向けた従業員の世代交代とNPO法人の有り方に関する意識高揚



# Ⅵ. 大山田自治協働取組み / 主要事業実行計画

## 事業名：⑥ 大山田の明日を考える会 (仮称)

### 1. 現 状

- ①平成5年から大山田村時代のふるさと創生「景観整備事業」により、地域づくりが始まる。
- ②補助事業終了後も、施設利活用や管理状況の情報交換や、地域間交流を進めるため「ゆめさき会」を組織する。
- ③以来、「ゆめさきシンポジウム」が開催されてきたが、平成27年度で幕を閉じる。
- ④今後、大山田地区住民自治協議会連絡会がシンポジウムを継承することとなった。

### 2. 事業目的

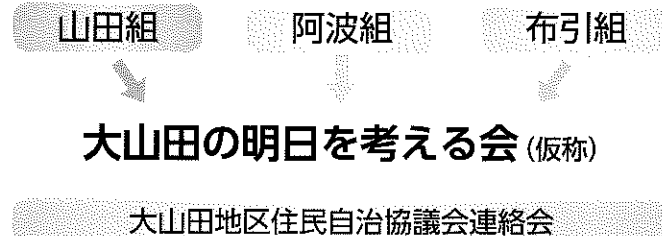
- ①大山田地域全体のまちづくりの推進に寄与する。
- ②3地域自治協の共通するまちづくり事業の企画・計画・運営等に関する提案を行う。
- ③大山田地域住民の共通するイベントやまちづくりの参加への意識啓蒙や参加促進を図る。
- ④大山田の若者、女性、移住者等の運営参加により、地域の未来を担う自治協活動の担い手を育成する。

### 3. 事業方針

- ①ワークショップなどを主催し、大山田住民のまちづくりに関する意識啓蒙を図る。
- ②伊賀市の中での大山田のまちづくりのあり方を検討する。
- ③若者・女性目線による新たなイベントや事業を提案する。

## 4. 実 施 計 画

#### ①体制図



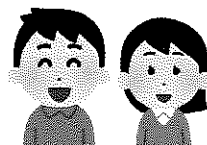
#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

- 1. 参加者募集
- 2. 検討課題に関するアンケート

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)									
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
1. ワークショップ等の開催(毎年)	300	→									
2. 自治協活動のあり方の検討	0	→									
3. 地域間交流イベントの開催	200	↔			↔				↔		
4. 地域振興事業の提案 (随時)	100	→									
計	600										

## 5. 今後の事業展開

- ①大山田全地域の自治協活動のあり方の検討 ~統合、協働
- ②世代間、地域間、異業種間交流イベントの開催
- ③産・学・官と連携した地域振興事業の取組み
- ④まちづくりイベントの主催
- ⑤各自治協内の実行委員としてまちづくり活動に参加



## 6. 取組み課題

- ①魅力的なイベントやワークショップを開催し、まちづくりへの住民の理解を進めると共に、若者や女性を中心に活動参加を促進する。
- ②グループの活動をネット媒体やメディアを活用しPRする。
- ③活動を通じて大山田への来訪者や移住定住者を増やす。

# Ⅵ. 大山田自治協働取り組み／主要事業実行計画

## 事業名：⑦ 馬野川小水力発電を復活させるプロジェクト

### 1. 現状

- ①布引・阿波・山田各村に電力を供給するため、大正8年に馬野川水電機により操業開始された馬野川水力発電所(100kw)は、中部配電機に事業継承され、昭和33年老化化により廃止されるまで、地域に電力を供給した。
- ②馬野溪谷は現在も多くのハイカーが訪れる景勝地である。
- ③近年は日本屈指の風力発電地帯として、再生可能エネルギーの集積された地域としても脚光を浴びている。

### 2. 事業目的

- ①馬野溪谷は、再生可能エネルギーの中でも発電効率の高い水力発電適地であり、これを事業化することでCO2削減及びエネルギー自給率向上に寄与する。
- ②地域エネルギーとして、エネルギーの地産地消を目指す。
- ③地域貢献として事業収益を地域に還元する。
- ④大山田を再生可能エネルギーを中核とする環境学習体験エリアとして地域振興を図る。

### 3. 事業方針

- ①「馬野川小水力発電を復活させるプロジェクト・地域協議会」を組織し、地域住民への事業内容の周知や事業協力を要請する。
- ②事業化のための法人を設立し、建設及び事業運営を推進する。
- ③自治協を主体に事業収益を活用した地域貢献事業を展開する。

### 4. 実施計画

#### ①体制図

地域協議会  
(株)マツザキ  
伊賀市  
関連企業  
三重大学  
コンサル  
金融機関



建設事業  
管理事業  
(株式会社設立)



地域貢献事業  
(一般社団法人設立)

#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

- 1. 環境学習の場として、学校や地域への周知を図る
- 2. 広く公募して事業支援者を募る

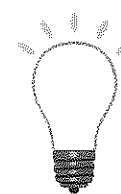
②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)										
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
1. 工事実施(実施設計、工事施工、完成)	0	→										
2. 地域協議会開催	0	↔		↔								
3. 法人化手続き	0	↔										
4. 管理運営	0				→							
5. 関連事業実施	0				→							
計	0											

### 5. 今後の事業展開

- ①(株)シーテックや(株)青山ウインドファームの支援、協力を求め、風力管理所内に自然エネルギーの環境学習センターの設置や自然保護活動に取り組む拠点を整備する。
- ②事業収益を活用して、地域活動ボランティア、資源ごみ収集などの多様な事業に地域通貨を発行して地域振興を図る。

### 6. 取組み課題

- ①事業収益の確保
- ②管理体制の確立
- ③地域貢献の検討
- ④将来の関連事業の展開



# Ⅵ. 大山田自治協協働取組み／主要事業実行計画

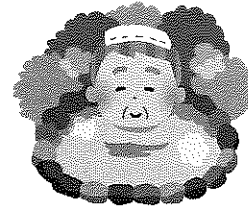
## 事業名：⑧ さるびの温泉運営支援

### 1. 現 状

- ①平成25・26年度の市による赤字補正を受け、26年10月からは市の要請により3自治協を中心とする理事会により運営されてきた。
- ②平成27年10月には任意団体「大山田温泉福祉公社」を一般社団法人として、28から30年度までの指定管理により運営している。
- ③自治協では、「自治協デー」「さるびのサポーター」や各種イベントのボランティア参加などの運営支援を行っている。

### 2. 事業目的

- ①大山田地域の産業・観光の中核施設として、今後も地域の公共温泉として維持・継続するため、全面的な運営支援を行う。

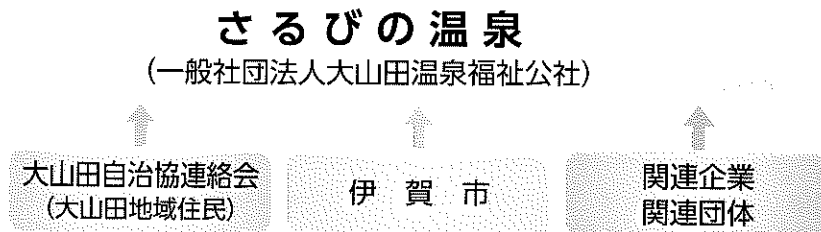


### 3. 事業方針

- ①地域の温泉として運営可能な経営改善を進めるため、地域住民の理解・協力のもとにイベント支援や環境整備などの運営協力を行う。
- ②地域住民に呼びかけ、利用率を高める。
- ③地域代表として自治協から理事を推薦する。

### 4. 実 施 計 画

#### ①体制図



#### ⑤その他 (広報・アンケート・モニタリング・etc)

- 1. イベント情報や運営状況の地域住民への周知
- 2. 温泉運営に関する住民意見のとりまとめ

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)												
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38			
1. 自治協デー開催 (2～3回/年)	0													
2. さるびのサポーターの活動 (イベントや環境整備など随時)	0													
計	0													

### 5. 今後の事業展開

- ①「さるびのサポーター」の人員確保と支援拡大
- ②「さるびのデー」等の関連イベントの充実
- ③さるびの運営に関する意見提案
- ④他地域の入浴客増大のためのPRを住民に要請

### 6. 取組み課題

- ①サポーター要員の確保
- ②「さるびの事業班」設置の検討



# Ⅵ. 大山田自治協協働取組み／主要事業実行計画

## 事業名：⑨ 地域間交流イベント（夏まつり、収穫祭、元日マラソン）

### 1. 現 状

- ①大山田地域住民や地域関係団体の多くが参加し、地域コミュニティを形成するための最大イベントとなっている。
- ②3自治協が各々主催を分担実施している。
- ③近年夏祭り会場のせせらぎ公園が台風災害を受け、伊賀市の予算対応が不十分なため、土砂撤去や除草等の管理ができていない。
- ④市の地域振興予算が削減され、今後の開催が懸念されている。

### 2. 事業目的

- ①地域住民のコミュニケーション・ツールとして必要不可欠なイベントであり、継続実施することで大山田の一体的な地域振興を推進するための意識醸成を図る。
- ②今後も継続していくため3自治協、地域関係団体等の参加協力を求め、さらなる地域連携を図る。

### 3. 事業方針

- ①近隣地域からの集客増大も含め、大山田地域活性化の中核イベントとして今後も継続実施する。
- ②知恵と工夫により財源不足を踏まえた開催方法を検討する。



### 4. 実 施 計 画

#### ①体制図

阿波自治協

布引自治協

山田自治協

夏まつり、収穫まつり、元日マラソン

#### ⑤その他（広報・アンケート・モニタリング・etc）

- 1. 今後も継続することについての住民意見を集約
- 2. 集客拡大のためのPR強化

②実施計画	③事業費 (千円)	④年次計画 (年度)									
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
1. 夏まつりの開催	2,000	→									
2. 収穫祭の開催	2,000	→									
3. 元日マラソンの開催	100	→									
4. 連絡協議会の設立（随時開催）	0	→									
計	4,100										

### 5. 今後の事業展開

- ①伊賀市、関係団体等の支援拡大によるイベント継続を図る
- ②イベント開催を通じて、さらに地域の結束力を高める
- ③メディアやネット媒体を通じた情報発信を行い、集客数を増やすことで地域活性化を図る

### 6. 取組み課題

- ①イベントを継続するために、自治協を中心に連絡協議会を設置して、地域コミュニティ醸成のため不可欠のイベントであり、今後も継続開催することについて伊賀市や関係団体に支援を要請する。
- ②地域振興予算の充実要望や関連企業、住民の支援協力を求め財源確保のための取り組みを強化する。

第2次まちづくり計画策定委員会

プロジェクトが発足後、意識調査とその報告、その後各部会での意見聴取をまとめました。3年越しの多くの時間を要し、ようやく一冊の計画書が完成しました。プロジェクトのメンバーはじめ各部長そして多くの方に協力いただきましたことに感謝いたします。計画書完成がゴールではありません。今後の実行に多くの皆様のご協力をお願いします。

プロジェクトリーダー  
山口 優

阿波が、いつまでも住み良い阿波であるために、結構真剣に考えました。

曾我 清 隆

ご縁が繋がり人が輝き地域が輝く企画に関われて幸いでした。

村 上 靖 尚

5年後、10年後そして将来の阿波についてみんなで創りあげたプランです。そのプランの主役はもちろん「あなた」です。いっしょに頑張りましょう!!

平 岡 敬 一

一生懸命考えました。楽しんで参加してください。自分たちのために。

奥 井 てる子

いろんな想いが詰まったプランです。皆さまご協力お願いします。

上 田 操

阿波地域のみんなが、力を合わせ明るく元気でいられるように。

橋 本 隆

計画実現に向け、地域の皆さんとともに活動していければと思います。

奥 泰 洋

やっと設計図が出来ました。出来ることから無理せず、背伸びせず。

事務局  
東 出 直 美

まちづくり計画実行委員会 (2017年度)

芝 田 喜比古	立 川 和 行
西 井 まさ子	安 場 繁 一
西 秀 樹	稲 森 誠
青 木 義 久	永 岡 清
山 森 四 郎	山 本 栄 子
中 嶋 成 裕	森 井 朗
滝 弘 之	児 玉 幸 弘
松 本 正 美	山 森 とよ子
西 尾 憲 一	阿 波 渚
西 岡 定 信	山 口 寛 美
藤 森 直 美	児 玉 一 夫
中 尾 清 己	島 崎 勝
武 内 良 樹	真 藤 久 敬
岡 口 加 奈	北 田 進
大 石 まどか	西 村 和 代
西 岡 竹 治	水 門 孝 彦
阿 波 佳 則	沢 井 敏 彦
恵 村 悟	NPO法人あわてんぼう
山 崎 武	株式会社マツザキ
中 森 二 三	さるびの温泉